

YWVOB会 会報 No.37

横浜国立大学ワンダーフォーゲル部OB会

YWV創部50周年記念号

<http://ywvob.com/>

2008年 1月 15日発行

～ 37号（YWV創部50周年記念号）の目次 ～

- 50周年記念事業実行委員会より・・・2
- 50周年記念事業
記念式典並びに懇親会のご報告・・・3
- 50周年記念山行（第20回OB山行）と
祝賀会（小屋）懇親会のご報告・・・9
- 2008年度OB総会のご報告・・・12
- OB会員近況報告（総会ハガキより）・・・16
- 第21回OB山行のご案内（蔵山）・・・19
- 07年最後のシニアOB月例山行・・・19
- 横浜国立大学ホームカミングデーご報告・・・20
- 苗名小屋便り・・・20
- 名誉会員 岡田悟氏を偲んで・・・21
- YWV現役の活動紹介・・・26
- OB会報編集係からのお願い・・・27

世代を超えて祝ったYWV創部50周年



■ 50周年記念事業実行委員会より

50周年記念事業実行委員会・委員長 鈴木弥栄男(9期)

2007年11月10日に記念式典の懇親会を現役・OB・OG総勢151名もの参加者のもと盛大に行われ、予定していた各種の記念行事を終了し創部50周年を祝うことが出来ました。

参加され盛り上げて頂いてくれた方々、陰で支えて頂いてくれた方々、実行委員や各期連絡係や幹事、現役とOB会の役員の方々の皆様が有機的につながり、“世代を超えて祝おう”のスローガンのもと、お祝いの舞台作りを、また演技者となり、また観客になって頂いたことに感謝を申し上げます。

記念事業・行事を時系列にあげてみると以下のようになります。

事業・行事	時 期	場 所	参加者
1) 海外記念山行	4月29日～5月7日	台湾・玉山	8人
2) 記念山行兼OB山行	5月12日	丹沢・畦ヶ丸	28人
懇親会	5月12日～13日	中川温泉・蒼の山荘	20人
3) ホームページ開設	9月1日～	(アクセス数12月6日現在6,330回)	
4) 記念山行兼OB山行	10月13日	妙高山	22人
記念祝賀会・植樹祭・懇親会	同上	苗名小屋	46人
記念散策	10月14日	仙人池・トウヒの森	14人
5) 記念式典	11月10日	弘明寺・付属中学校	129人
懇親会	11月10日	ホテル横浜ガーデン	151人
6) 記念誌発行と配布	11月10日	(懇親会参加者に直接配布・その後会員へ郵送)	

11月10日に行われたOB総会にて実行委員会のHP分科会をHP委員会発足と継続、更に記念誌発行やHP作成時に集めた多くの資料を今後を引き継ぐために部史編纂委員会発足をご承認頂きましたので、この実行委員会から発展的に引き継がれることとなります。



この50周年記念事業を横浜国大の公式HPで紹介して頂くこと、更に“山と溪谷”の該当コラムに掲載して頂く方向で進んでいることを報告致します。

ホテル横浜ガーデンで盛大に行われた懇親会の最後は「みはるかす」の大合唱とエール交換で力強く締めくくられました。

■ 50周年記念事業 記念式典並びに懇親会のご報告

記念式典・懇親会分科会長 密島 英二（6期）

11月10日、横浜国大付属横浜中学校（旧工学部跡）・レクチャールームにて50周年記念式典が、またその後、関内のホテル横浜ガーデンにて懇親会が執り行われました。

記念式典は、和気あいあいとした雰囲気の中、第6代YWV部長の高木展郎先生のご挨拶から始まり、ホームページ分科会、記念山行分科会、記念誌分科会、



HP委員長吉村氏（3期）
と現役の石倉さん（50期）

山小屋分科会からの活動報告と、50周年を振り返ってと題して10期ごとの代表の方の話があり、部草創期に提示された「行動的文明批判」なるテーゼがいつごろまで受け継がれたかとか、リスク管理の経緯を追うことでYWVの歴史の側面が見えたりして、それぞれの世代の方々が、それぞれに感慨にふけられたように見受けられました。最後に現役の石倉さんからの活動報告もあり、まさに世代を超えた記念式典となりました。

懇親会は8期池原氏のお骨折りで玉川アルプホルンクラブの友情出演を戴き、一転華やかで和やかな雰囲気が始まり、立食パーティながら、歓談とアルプホルンクラブの多彩な演奏、幾つかの期のテーマソングの合唱などで懐かしきワングルの雰囲気に浸り、最後は参会者140余名が会場一杯の輪になって全員で歌い、半世紀に渡る世代が一つに融合したかの盛り上がりを見せて“フレイフレイワングル！！”のフィナーレを迎えました。

一手に裏方を引き受けてくれた分科会委員の方々、お疲れ様でした。またご出席下さいました皆様にはYWVの歴史を、更に伸ばして行くお力を戴きまして、心より感謝申し上げます。

ありがとうございました。

横浜国立大学ワンダーフォーゲル部創立50周年記念式典挨拶

YWVOB会 会長 嘉納 秀明（1期）

本日は横浜国立大学ワンダーフォーゲル部創立50周年記念式典を開催いたしましたところ、130人をはるかに超す方々が参加されまして、盛大に50周年をお祝いすることが出来ますことは誠に喜ばしいことでもあります。

私は、1957年新生生の時に、本学にワンダーフォーゲル部のないのを知り、部の創立を思い立ち、同志を集めてこの部を開始したものであります。食糧、テントを担いで、野を歩き、丘を越え、峠を越え、嶺を目指してわたり歩く、渡り鳥のような活動をする部を目指したものでした。このようにして播いた一粒の種が50世代もの若人の青春をやどす大木に生長したことに深い感銘を感じております。



50周年を迎える大学ワンダーフォーゲル部は多くあり、どのワングルも山小屋を保有しておりますが、みな同じようなものとはいえません。我が部の50年の歴史を振り返りますと、我々の部が際立った個性を有していることがわかります。本日配布されました50周年記念誌にその一端が掲載されておりますが、揺籃時代からの急成長、部則、禁止条項、リーダー制の確立、各期ごとに意欲的なテーマを掲げての夏合宿、路線対立による分裂騒ぎ、悲しい遭難事故、他大学ワングルとの交流、山小屋建設と維持管理、部員数の減少による廃部の危機、OB会の初期事務局による経営と第一次月例山行、関西支部の発足、OB会の低迷化、遭難対策費の行方不明とその再確保、シニアOBの月例山行開始、新体制OB会運営の開始など、紆余曲折、波乱に満ちたものでありました。そして、その中に一筋、YWVに対する熱い思いと、山を通じて結ばれた深い友情とが綿々と貫かれているのを見ることができると思います。

これからも、現役部員、OB会員が集い、山小屋で語らい、山行を共にし、楽しいことに挑戦しつつ、我々のYWVを育ててゆくことを願ひまして私の挨拶とさせていただきます。

世代を超えて酌み交わし、歌い、話して盛り上がった懇親会



第5代YWV部長米屋勝利氏のご挨拶



吉野大次郎氏の音頭で乾杯

50周年記念懇親会会場での一口感想 (順不同)

平林 (奥様) (3) : 私はOB会員ではありませんが未だに山に登っている方がいるようで、パワーを感じました。皆さんが生き生きと見えます。

中村 栄子 (5) : 夫婦2人で健康でこの会に参加できて嬉しいです。

溝田 隆之 (8) : 物故者への追悼がほしいですね。

狩野 一子 (14) : 卒業以来の人に会えて嬉しいです。

原田 修平 (36) : シニアや団塊の世代のパワーを感じました。我々も個人同士が強くまとまっています。今日はオーストラリアからの参加もいます。

山本 紀子 (10) : 楽しいです。昔がよみがえって来る感じ。総会は初めてだったけれど来て良かったです。これからも参加していきたい。

野呂 敬子 (25) : 学生時代のことがついこの間のような気がします。25期は小野文雄さんの追悼をしながら年に1~2回集まっていて、今日も同期で集まろうと呼びかけあって5人が参加しています。

藤岡 暉生 (1) : 私は2年から入ったのですが、ここまで役員の方々が努力してくれたから50年の歴史があるわけで有り難いです。

佐藤 文雄 (1) : ワングルを作って本当に良かった、入って良かったと思っています。青

春の1ページを共有しあえるのがうれしいです。ワングルの経験から、今はみんな各地のリーダーとなって活躍しています。昨日は1期の同期会をやって8名が集い、今朝、昔の道を辿りながら懐かしい立野校舎へ行ってきました。今は附属小学校となっていました。

富士田誠之 (37) : 凄い。年代を超えてこれだけの人が集まるなんてワングルは凄い！私は今京都にいますが、ワングルで培われた忍耐力が、今役に立っています。

梅野 匡俊 (17) : 今日ここで現役に会って、現役が自分の息子と同じ年代であることに何とも言えない思いがした。でも若い現役達とも何か共通するものを感じる。17期は年2回飲み会をされていて、今日も5人が集まっています。

津江 真行 (22) : すごく懐かしいです。今日22期は5人も参加しています。楽しい！

津江 裕子 (22) : 参加者がすごくいっぱいびっくりしています。嬉しいです。

丸茂 俊二 (23) : このような会をこれきりにしないで10年に1回は、いや、5年に1回はやりましょう。

岡田 光豊 (6) : 人生夢の如し。これだけの年代が集まっているのだから、各人思うことは違うと思うが、自分の思いは後何年楽しめるかに尽きる。ガツガツしないで噛み締めて過ごしていきたい。

**インタビューにご協力下さった皆様、ありがとうございました。*



懐かしい歌の合唱で会場が一つになりました



松本君子氏 (6期) のフルート演奏にほれぼれ



現役部員からも熱いメッセージが



玉川アルプホルンクラブの皆さんの演

1月27日、横浜国大付属中学校（元工学部）において50周年記念事業実行委員会が開催され、4つの分科会が発足しました。私は記念式典分科会に所属し、具体的な話し合いに入りました。まず会場はどこがよいかの検討をしましたが、式典はYWV発祥の地（本当は立野分校だそうです）がよいのではということになりました。懇親会は、式典会場から近い所として西田さんがホテル横浜ガーデンを提案してくれました。



ホテル横浜ガーデンでの受付

このあと、3月（欠席）、7月、10月と委員会が開かれ、式次第をどうするか、どなたに話していただくか、何を用意するか等々話し合い、役割分担をして準備を進めてきました。

11月10日は朝から雨が降り寒い日でしたが、集ってきた121名（ホームページでは129名になっています）の参加者は、どなたもとてもいい表情で受付をしてくださり、この日の準備を進めてきた1人として嬉しい限りでした。

式典会場のレクチャールームに入れたのはごくわずかな時間でしたが、世代を越えて同じ思いで50周年を迎えているのだと思うと感慨深いものがありました。懇親会の準備のため式典の途中で、吉野さん、三浦さん、日渡さん、上原さんご夫妻と一緒にあたふたと学校を出て懇親会の会場であるホテル横浜ガーデンに向かい、受付会計の準備にかかりました。

受付は9期の三浦さん、日渡さん、上原優子さん、梶野さんが、会計は上原さんと私が担当し、参加者の到着を待ちました。受付開始の頃はまだ余裕があったものの続々と参加者がやってきて列をなしてからは会費をいただく人の顔を見ることもできず、「ありがとうございます」「ありがとうございます。おつり4000円です」「ありがとうございます。おつり5000円です」「ありがとうございます。おつり8000円です」の繰り返しを141回やり続けました。

やっと終わったと思いきや、人数と徴収金総額が合わず何度も計算し直すはめになってしまいました。懇親会はとっくに始まっていてこれでは出られなくなってしまうということで、とりあえず総額を吉野さんに預けて懇親会に参加しました。

会場はすっかり盛り上がっていて、あちこちで談笑の輪ができ、楽しそうな笑顔がはじけている光景がとても印象に残りました。懇親会の最後に、YWV創設者の嘉納さんをはじめとして部活動を支えてきた多くの先輩諸氏から、長身のスマートな現役の学生まで一緒に肩を組み、早坂さんの発声で交わしたエールは、共通の体験を通して培われた絆を、あらたに強めてくれたような気がします。

当日の参加人数と徴収金の総額が合わなかったため、懇親会が終わっても担当者とは何回かのメールのやりとりを通してその原因を探った結果、徴収者のチェック漏れがわかりましたが、それでも1000円が余剰金となってしまいました。多分おつりの間違いかまたは6000円いただくところを7000円いただいていたのでは、と思われます。いろいろ心当たりの方に確かめてみたのですが、解らずじまいとなってしまいました。担当者として申し訳なく思いますが、どなたかからの寄付として処理させていただきました。

記念式典・懇親会分科会委員として十分な役割を果たすことはできませんでしたが、大勢の参加者と一緒に50周年を祝うことができたのはなによりでした。

YWV・OB会50周年の記念行事に参加して

三浦煌太郎（9期）

卒業以来、ワングルの同期とは山に行ったり、食事をしたりして時々会っていましたが、OB会の活動にはまったく参加しておりませんでした。

今回の50周年記念事業に初めて参加することになり、昔の仲間や先輩、後輩の方々とお会いし、一緒に事業を進めることが出来、大変楽しく、すばらしい体験が出来ましたこと感謝しています。

今年6月に定年を迎えたものの、今のところ仕事を続けておりますが、やがて時間も出来ますので、その折はOB会の皆さんと山に行けることを楽しみにしております。

世代を飛び越えて

西田 雅典（20期）

これまでOB会のお手伝いはなかなかできなかったのですが、今回50周年の節目で少しでもお手伝いできたことを大変ありがたく思います。また、まるで現役時代のように世代を飛び越えて式典分科会で一つ一つの項目につき議論できたのは大変愉快でした。

式典、懇親会はワングルらしく愉快地に進行したと思います。ワングルのほのぼのとした空気を会場の皆さんも感じていたのではないかと思います。会場は3月くらいに予約して以来、ホテル側も当方の主旨を理解し、細かいところまで、よくアレンジしてくれたと感謝します。

今回、期を飛び越えて折角これだけ集まったので、これを機に50周年を節目にそれぞれのやり方でOB会への参加意識が高まればと思います。

YWV 発足の地

松田 哲治（31期）

前日の夜9時頃、YWV50周年記念式典の際、スクリーンに映写する式次第用のパワーポイントファイルにやっと着手。明日の準備ゼロの状態からスタート。当日YNUホームカミングデイ運営のため式典に参加できず、わたしが代読するはずの29期禅先輩からの「50年を振り返る」原稿は、未だ届かず。「ホントに明日が迎えられるのか...」附属横浜中の国語科研究室で一人ボヤキつつパソコンに向かいながら、でも、他の仕事をしているときずっと浮かれて取り組んでいる自分にふと気づく...

当日は、早朝より会場であるレクチャールームの掃除から始める。「なかなか終わりが見えないなあ...」広い会場で自分の声を響かせながら、ほうきを持ってほこりと格闘しつつ机と椅子を整理する。

やがて人々が集まり始める。初めてお会いする人たちがほとんどの中で、なぜか一つの同じ匂いを感じる。年代は違えど、同じ学生時代をYWVで過ごした仲間なのだ。現在YWV発足の地で勤務しているのも何かの縁か...

...いやあ、それにしても、シニアパワーの奥深を感じた一日でした。



記念式典会場の横国大付属中

*松田氏にはOB総会・50周年記念式典会場の設営、後かたづけ等で大変お世話になりました。
ありがとうございました。

かけがえのない友達がYWVにはたくさんいる

海野 和明（19期）

今回の記念行事では、記念誌の原稿作成（はじめて写真のはめ込みを覚えた）、当日の十期代を代表しての発表などいろいろな役目をやることになり、思い出深いものとなりました。いつか思い出となったことを記してみます。

【その①】

当初幹事であった、中島君（経営）が七月に病床に就くことになりました。仕事熱心さの故か、僕たちも無理が利かない歳になったのか。幸い治療が功を奏して退院しましたが、かれの分も何かできないかと思い、記念誌の原稿を書きました。当時の写真や事故報告書、スカイラインなど手元にある資料を読み返しているとタイムワープしたようで「若々しさ」がぷんぷんにおおってきました。当時の若き仲間の文章は、元気と悩みが満ち満ちていて現在の「大人」になってしまった私たちが遠く忘れていたものばかりでした。故徳重君の「遺稿集」は墓まで持って行きたいような感じでした。



【その②】

これまでもいろいろな事情で、途中でワングルを退部したものの、数年に一回は同期会に顔を出していた、岡本君と南君が正式にOB会の入会が認められました。これからは（会費を滞納しない限り）OB会誌でいろいろな情報が共有できることが楽しみです。岡本君は来年の苗名小屋40周年に参加してみたいと意欲的でした。また卒業してから数年して広島県福山に転勤している当時の主将・磯尾君が十数年ぶりに泊りがけで参加してくれたことで、同期は一気に盛り上がりました。何年たっても「主将」の存在は大きいのです。

【その③】

当日、昼間に都合がつかないメンバーもいたので懇親会のあとで二次会をやりました。懐かしい「中華街」で部屋を借り切って楽しいひと時を過ごしました。日ごろ「海野さん」「海野部長」とか「お父さん」と呼ばれているのにここでは誰もが「海野」とか「海野君」と呼ばれるので大変居心地がいいのです。おかげで「紹興酒」もおいしく飲みました。だれもカメラを持っていなかったのが残念ですが。

【その④】

弘明寺の記念式典でも言いましたが、ワングルの友達は偶然できたものではありません。全国の高校から横浜国大をめざし、ワングルの門をたたいたときからずっとつながってきたものです。人生にとってかけがえのない人たちの集まりなのです。これからもこのつながりを大切にしていきたいと思えます。

■ 50周年記念山行（第20回OB山行）と

祝賀会（小屋）懇親会のご報告

YWV 創立 50 周年記念妙高山行

山本 陽一（10期）

参加者：嘉納秀明（1） 吉野大次郎（2） 宮崎 紘（2） 小林秀臣（7） 山本陽一（10）
安藤貞利（11） 榎本吉夫（12） 小口雄平（14） 葛窪真紀子（17） 小浜一好（17）
長谷川三津子（17） 渡辺雅子（17） 山口貢三（18） 小野恵美子（34） 塩野貴之（46）
小林貴志（49） 高岩玲生（50） 石倉 研（50） 渡辺充史（51） 田辺健司（51）
茂呂将典（51） 中野未樹人（51） 計 22 名 平均年齢 43.73 歳

妙高山は私が1年生であった1966年の夏合宿で登った山だ。

その隊の名称は「名香山隊」、妙高山の昔の名前からとったものだ。

その山がこの記念山行の目的地に選ばれたとは何ともめでたいことである。

10月13日（土）朝6時過ぎにJR、バスで上越に来た4人を乗せた妙高2号は妙高高原駅に着いたが、何と雨が降っていた。

吉野さん、宮崎さんなどの出迎えを受け、車で来たメンバーを合わせて燕温泉に全員が集合した。

そこには最近階段で脚を痛めた8期の佐木さんも見送りに来てくれた。メンバーは1期から51期まで（70歳から18歳まで）の22名。平均年齢は推計44歳であった。出発する頃になると、雨が上がってきた。6:50に出発。先頭は50周年記念山行委員長の11期安藤さん、殿（しんがり）は2期吉野さんと思われたが筆者は前の方にいたため確認はしていない。登山口とおぼしきところに登山者カウンターがあり通過した人数を数えている。ここまでは舗装された車道で、この先は細い道に入るが、そこも舗装されている。源泉小屋に行くためのようだ。しかし右側は深く切れ落ちておりバランス感覚の鈍ってきた中高年には一寸怖いところもあった。道ばたには所々温泉が湧いていて硫化水素の臭いが漂っている。前方に滝が見えたところで休憩。ここも足元が切れ立っておりやはり怖い。ここからもしばらくは沢沿いに歩く。他の登山パーティーとは抜きつ抜かれつ状態となるが、そのたびに22人が通過するので相手のパーティーには迷惑であったと思われる。

麻平分岐を過ぎると、いよいよ尾根への登りで急登となった。登山者が多いせいか登山道が深くえぐれたところがありアルバイトを強いられた。胸突き八丁という急坂を過ぎると広場に出た。（9:20）そこが天狗堂という分岐であった。今山行のOB中の最大勢力である17期が自然の中の生活と都会生活のバランスについて議論していた。

ここにも登山者カウンターがある。この記録はどのように利用されているのだろうか。ここからしばらくは傾斜が緩く、光善寺池という池もある。その先には冷風が吹き出している



という風穴があったが、なぜか風は殆ど吹いていなかった。

このあたりから山頂部に入り傾斜が急になってくる。その入口が鎖場という名前の岩場になっている。鎖場を過ぎても山頂までずっと急登が続くが、足元には粉砂糖のような新雪が現れてきた。また、西方には北アルプスの山々が望まれた。

11:00 安藤委員長の予定通り妙高山南峰に到着した。妙高山の最高点即ち山頂はこの南峰であり、それが 2454m という妙高山の標高となっている。かつては、山の標高は三角点の標高で現わされており、妙高山の標高も北峰にある一等三角点の高さ 2446m とされていた。

今から 10 年ほど前、国土地理院は山の標高を見直し、三角点ではなくて最高点をその山の標高とすることにした。妙高山の標高もこれに倣って南峰の標高である 2454m となった。

しかし、北峰の方に三角点があり、広くて休むのに向いているため、2446m 三角点の目の前に 2454m という標識が建っているという奇妙なことになっている。その北峰の頂上で昼食を取り、記念撮影をした。

また筆者は一通り現役諸君との相互紹介をした。

頂上に名残を惜しみつつ天狗堂まで往路を戻る。(13:09) ここから右にコースを取り新赤倉温泉へ下る。すぐに林道に出て、しばらく行くと大谷ヒュッテが建っている。無人だがきれいな小屋であった。林道をそのまま行くと山小屋の近くに出るのだが、工事のため通行止めになっている。しかたなく左の山道にはいるが、結構傾斜がきつく最後の力を振り絞って歩くといった状態となった。その甲斐あって前方が開けスキー場に飛び出した。すぐ下にスカイケーブルの駅があった。(15:00) ここで一応記念山行は終了した。が、歩き足りない(?) 現役と 34 期の小野さん(普段の OB 山行委員長)と筆者は、スキー場のゲレンデを滑るように下っていった。新赤倉温泉の岡山館で汗を流して記念山行は完了した。

仙人池・トウヒの森散策

山本 陽一 (10 期)

参加者：高橋弓子 (8) 綾部和子 (8) 鈴木弥栄男 (9) 山本陽一 (10) 安藤貞利 (11)
大森常明 (11) 小口雄平 (14) 鈴木道夫 (14) 葛窪真紀子 (17) 小浜一好 (17)
長谷川三津子 (17) 山口貢三 (18) 笹倉 実 (30) 小野恵美子 (34)

計 14 名 平均年齢 54.4 歳

苗名小屋での記念式典から明けた 10 月 14 日 (日) は、小屋と笹ヶ峰牧場の間にある仙人池と笹ヶ峰ドイツトウヒの森を散策した。メンバーは 8 期から 34 期まで 14 名。因みに平均年齢は昨日より 10 歳増しの推計 54 歳であった。

9:30 に小屋を出発し笹ヶ峰牧場へと続く車道を歩いていくと昨日登った妙高山が遠望できる。都会の道路と違って、通過する車が例外なく徐行してよけてくれるのが嬉しい。標識もない分岐を左に曲がると仙人池である。すると昨晚聞いたアルプホルンの響きが漂ってきた。

8 期の池原さんたちホルンの会の皆さんが先回りして池を囲むようにしてホルンを演奏していて、後から来る我々をホルンの音色で迎えてくれたのだ。池の周囲は響きもよく、我々散策隊は大いに喜んだ。暗い中で聞くよりはこの池の畔で、池に写る黒姫山を眺めながら聞くアルプホルンの方が何倍も素晴らしく、思わず「Sound of Music」の世界にいる気分になった。



池を半周すると今度は逆さ妙高が見られた。ホルンの音色とお別れし、トウヒの森に向かう。途中にヤマブドウがあって皆で味見をするが、味は今一であった。

階段状の道をかかなり下るとドイツトウヒの森がある。皆が持ってきた食料を回してここで昼食にするが、小屋に沢山残っていたビールを持ってこなかった事を悔やんだ。この先の広場を探索し、そこから帰路についた。

この広場の藪の中で筆者だけが鮮やかな青い実を見たが、その鮮やかさが印象的であった。来る時に下った分を登り返し県道に出ると、笹ヶ峰牧場の向こうに 1966 年の夏合宿で登った焼山、天狗原山等が眺められた。下りの車道の長さとうんざりしたころ小屋に着いた。
(13:00)

苗名小屋での祝賀会・懇親会

苗名小屋での50周年記念祝賀会・懇親会は、会員41名+部外者6名+来賓の岡田氏という多くの人の参加を得て行われました。

祝賀会では嘉納OB会長、後藤小屋委員長のご挨拶ののち、記念植樹（ヤマザクラ苗木10本）を行いました。

懇親会では、名物のバーベキューや闇なべをお腹一杯いただきながら、特別ゲスト；玉川アルプホルンクラブの合奏、全員合唱、エール交換、踊りなどで楽しく過ごしました。

五右衛門風呂にも入浴して、翌朝は小屋の修理もしっかりやりました。（YWVOB会ホームページより）



ワンゲルが YNU ニュースに登場

国立大学法人・横浜国立大学 広報・渉外室発行の **YNU ニュース 通巻 227 号**にワンゲルの50周年記念紹介記事が大々的に掲載されました。

「昭和32年5月に創立され、OB会員が500名を越す本学でも屈指のワンダーフォーゲル部が、今年創立50年を迎えました。・・・」という書き出しで、記念式典、懇親会、記念登山、苗名小屋での祝賀会、ホームページ開設、記念誌作成など一連の記念行事が詳しく紹介されています。

また、懇親会場での玉川アルプホルンクラブの演奏の写真や、150余名での集合写真なども掲載されていて盛大な記念行事が行われた様子が窺えます。皆さんも是非 YNU ニュースをお読み下さい。（問い合わせ先：総務部広報・渉外室広報係 内線：3016 E-mail:koho@nuc.ynu.ac.jp）

YNU ニュースの開きかた

横浜国立大学ホームページ→広報・公開・メディア→教職員向け「YNU ニュース」年20回発行→2007年12月19日発行通巻227号→P6

■ 2008年度OB総会のご報告

会 長 嘉納 秀明 (1期)

幹事長 石川 真 (41期)

副幹事長 小野恵美子 (34期)

2008年度OB総会はYWV50周年記念式典と日程を合わせて開催しました。かつて無いほど多くの方々のご出席の下、議事が執り行われました。

〔日 程〕 2007年11月10日(土) 14:00～14:45

〔会 場〕 横浜国大付属横浜中学校レクチャールーム

〔出席者数〕 88名

〔総会議事〕

1. 開会のことば (渡辺関西支部長)

2. 会長挨拶 (嘉納会長)

3. 2007年度OB会活動報告

① 役員会

1/27は50周年事業実行委員会の議事が押して役員会が開催できなかったが、以降3/18、8/5、10/21の3回開催した。

② 山小屋委員会

昨シーズン3回雪下ろしを実施。8月から台所の改装工事を行い、明るく使いやすくなった。10/13～14には苗名小屋でYWV50周年記念祝賀会と懇親会を行い、50名近い人たちが集まって盛り上がった。

③ OB山行委員会

第18回矢倉岳(12/2)、海外特別山行台湾・玉山(5/1～2)、第19回畦ヶ丸(5/12～13)第20回妙高山、笹ヶ峰周辺散策(10/13～14)の4回実施。

矢倉岳以外はYWV50周年記念山行として開催。大勢の参加で賑やかな山行となった。

④ 編集委員会

OB会報34号(12/25)、35号(3/20)、36号(8/31)を発行。

YWV50周年記念事業の一つとして、記念誌の編集・発行を行なった。

⑤ 会計

別表のとおり。

4. 2008年度活動計画

① 役員会

今年度も4回の予定で役員会を開催する予定。次回は1/19に開催の予定。

② 山小屋委員会

例年どおり3回の雪下ろしを予定。来年は小屋建立40周年であるので、10月に苗名小屋で祝賀会を開催したいと考えている。

③ OB山行委員会

第21回蔵山(2/16)、第22回笠取山(5/17)、第23回火打山、笹ヶ峰(コース未定)(10/11～13)の3回の山行を予定。第23回山行は苗名小屋40周年記念行事に合わせて開催予定。

④ 編集委員会

例年どおり年3回の会報を発行する予定。

⑤ 会計

別表のとおり。

【承認】 以上活動報告および計画について、満場一致で承認された。

2007年度一般会計決算 (2006.10.1～2007.9.30)

前期繰越	1,709,587	1,709,587
------	-----------	------------------

収入			
費目	予算	実績	差額
年会費	150,000	192,000	42,000
前納会費	316,667	356,667	40,000
一般寄付金	70,000	76,820	6,820
小屋寄付金	150,000	152,320	2,320
総会参加費	100,000	130,000	30,000
山行参加費	20,000	5,500	-14,500
名簿郵送関連	10,000	13,000	3,000
その他収入	0	1,838	1,838
計	816,667	928,145	111,478

(前納会費214名2,140,000/6 356,667)

支出			
費目	予算	実績	差額
会報作成・発行費(3回)	350,000	329,823	-20,177
小屋会計振替	150,000	152,320	2,320
総会費用	130,000	128,850	-1,150
山行費用	30,000	13,761	-16,239
役員会・委員会費用	30,000	3,858	-26,142
名簿郵送費	10,000	7,916	-2,084
関西支部補助	10,000	10,800	800
50周年積立金	100,000	100,000	0
その他支出(予備費)	5,000	16,324	11,324
計	815,000	763,652	-51,348

当期収支 1,667 **164,493** 162,826

次期繰越 1,711,254 **1,874,080** 162,826

(前納会費繰延 1,015,000 1,398,333)

50周年積立金明細 2007.9.30現在

	収入	支出	差引残
05-07年度積立金	300,000		
寄付	102,885		
実行委員会支出		127,087	
計	402,885	127,087	275,798

現預金 2007.9.30現在

現金	0
振替口座	832,257
総合通帳	3,219,454
計	4,051,711

特別準備金 2007.9.30現在

定額貯金	2,000,000	07.7.24
定額貯金	2,000,000	07.7.24
定額貯金	1,000,000	07.7.24
定額貯金	238,000	07.7.27
総合通帳	291	
計	5,238,291	

帳簿 2007.9.30現在

次期繰越	1,874,080
前納会費繰延	1,398,333
50周年積立金	275,798
前受金	503,500
計	4,051,711

2007年度OB小屋会計決算 (2006.10.1～2007.9.30)

前期繰越金(2006.10.1)	1,340,623	①
------------------	-----------	---

収入		
OB会計より振替	152,320	
預金口座利子	782	
OB小屋会計収入合計	153,102	②

*トイレ修理代立替金返済 0 ④

当期収支(②-③)	-109,852
-----------	----------

<現預金>	
現金	0
預金	1,080,771
トイレ修理費立替	150,000
計	1,230,771

支出		
除雪費用	0	
除雪作業補助	5,000	
小屋整備修繕(DIY・他)	233,970	
小屋地代	10,000	
4大学懇親会参加費他	13,099	
振込手数料	885	
OB小屋会計支出合計	262,954	③

*トイレ修理代立替金 150,000

次期繰越金(2007.9.30)	
現預金(①+②-③)+④-⑤)	1,080,771
トイレ修理代立替金⑤-④)	150,000
計	1,230,771

<帳簿>	
次期繰越金	1,230,771
未払金	0
預り金	0
計	1,230,771

2008年度一般会計予算 (2007.10.1～2008.9.30)

(07年度実績(08年度予算))

前期繰越	1,709,587	1,874,080
------	-----------	------------------

収入	07年度実績	08年度予算	差額
年会費	192,000	120,000	-72,000
前納会費	356,667	356,667	0
一般寄付金	76,820	70,000	-6,820
小屋寄付金	152,320	150,000	-2,320
総会参加費	130,000	0	-130,000
山行参加費	5,500	10,000	4,500
名簿郵送関連	13,000	10,000	-3,000
その他収入	1,838	5,000	3,162
計	928,145	721,667	-206,478

(前納会費繰延,840,000/6 **306,667**)
 (同当年度分 300,000/6 **50,000**)
 (前納会費計 **356,667**)

50周年記念事業費 2007.10.1～2008.9.30

	収入	支出	差引
05-07年度積立	300,000		
寄付	102,885		
08年事業費予	800,000		
05-07支出		127,087	
08年支出		1,000,000	
計	1,202,885	1,127,087	75,798

支出

費目	07年度実績	08年度予算	差額
会報作成・発行費(3回)	329,823	350,000	20,177
小屋会計振替	152,320	150,000	-2,320
総会費用	128,850	0	-128,850
山行費用	13,761	20,000	6,239
役員会費用	3,858	20,000	16,142
ホームページ委員会費用	0	30,000	30,000
部史編纂委員会費用	0	30,000	30,000
名簿郵送費	7,916	10,000	2,084
関西支部補助	10,800	10,000	-800
50周年記念事業費	100,000	800,000	700,000
その他支出(予備費)	16,324	5,000	-11,324
計	763,652	1,425,000	661,348
当期収支	164,493	-703,333	-867,826

次期繰越	1,874,080	1,170,747	-703,333
------	-----------	------------------	----------

(前納会費繰延分 948,333 1,131,667)
 (前納会費・当年度分繰 450,000 250,000)
 (前納会費繰延・計 1,398,333 1,381,667)

	2007.9.30	2008.9.30
次期繰越	1,874,080	1,170,747
前納会費繰延	1,398,333	1,381,667
50周年積立金	275,798	
前受金	503,500	
計	4,051,711	2,552,414

2008年度OB小屋会計予算 (2007.10.1～2008.9.30)

前期繰越金(2007.10.1)	1,230,771	①
------------------	-----------	---

収入		
OB会計より振替		
・小屋寄付金	150,000	
預金口座利子	0	
B小屋会計収入合計	150,000	②
*トイレ修理代立替金返済	150,000	④
当期収支(②-③)	-1,000	

支出	
除雪費用	0
除雪作業補助	90,000
小屋整備修繕(DIY・他)	60,000
小屋地代	0
振込手数料	1,000
OB小屋会計支出合計	151,000
*トイレ修理代立替金	150,000

次期繰越金(2008.9.30)	
現預金(①+②-③+④-⑤)	1,229,771
トイレ修理代立替金⑤-④	0
計	1,229,771

5. ホームページ委員会、部史編纂委員会の設立について (嘉納会長)

OB 会活動の中で既にホームページの作成・運営と部史編纂事業が行われている。正式にホームページ委員会、部史編纂委員会として設立し、それに伴い会則を改定したい。

【承認】 会則の改定について、満場一致で承認された。

6. 50周年記念事業の経過説明 (鈴木実行委員長)

7. 役員人事

小屋委員：29 期松本和之さん (小屋会計担当)

ホームページ委員長：3 期吉村元孝さん、ホームページ副委員長：9 期鈴木弥栄男さん

部史編纂委員長：1 期嘉納秀明さん、部史編纂副委員長：46 期塩野貴之さん

【承認】 上記 5 名の役員新任について、満場一致で承認された。

8. 新 OB 会員承認

これまで現役から OB 会への入会は、大学を卒業した年の OB 総会で承認してきたが、卒業と入会とに間があり、連絡が取れなくなることがあるので、今年度より 4 年生を対象に行うこととする。(今年度のみ 47 期、48 期の 2 学年分行う。)

47 期 井上朋香さん、小原博一さん、48 期 島田静香さん、安田 遥さん

途中入会希望：19 期岡本 豊さん、19 期南 靖英さん

【承認】 上記6名の方が満場一致で新会員として承認された。

9. 関西支部報告（2007）

関西支部長 渡辺 享英（3期）

1. 会員

11月末現在の会員数は、正会員23名、特別会員4名、合計27名で昨年比1名の増加です。新名簿によると、19期の新OB会員 南さんの住所は奈良県奈良市なので関西支部員として登録しました。他の26名は昨年と変わっていません。詳細は、OB会報No.34をご参照下さい。

2. 会計報告

収 入		支 出	
費 目	金 額 (円)	費 目	金 額 (円)
前期繰越金	14,251	通信費	3,900
2007年支部活動費	10,800	事務用品費	3,550
		写真材料	1,930
		次期繰越金	15,671
合 計	25,051	合 計	25,051

3. 支部行事

実施日	行事名	参加者
2006.10.29	葛城山	田上、西村、渡辺、斎藤、三宅
2006.12.27	西大寺	田上、西村、渡辺、斎藤、向井夫妻
2007.04.29	大国見山	田上、西村、渡辺、斎藤、泉、向井夫妻、三宅
2007.05.20	矢田丘陵	田上、西村、宮崎裕子夫妻、斎藤、三宅、向井
2007.11.28	談山神社、飛鳥岡寺	田上、西村、渡辺、斎藤、泉、三宅、向井夫妻、馬場

毎年、春秋それぞれ3回程度支部行事を計画するのですが、今年は雨天中止や、支部役員の高齢化による健康問題などの影響で実施回数がやや減少しました。

それでも11月のハイキングでは9期馬場さん（写真前列左端）の初参加もあり総勢9名で飛鳥歴史探訪



と紅葉狩り、橿原神宮での懇親会など楽しい一日を過ごしました。

10. 閉会のことば（嘉納会長）

※以上で議事は終了。休憩後 同じ会場で記念式典が催された。

■ OB 会員近況報告（総会ハガキより）

- 岩上 克尚（2期） HCD の実行委員をしています。11月10日は、そちらでがんばります。式典・懇親会の盛会をお祈りします。
- 栗田武寿郎（3期） この9月、子供がガンで手術をしました。なかなか皆様と一緒にになれることもありません。皆様には十分、お身体にはご留意のほどを!!
- 江崎 伴雄（3期） 今年6月で会社勤務を終え、来年4月からは、学生（横国大大学院環境情報学府の修士課程）となり、地球温暖化問題を研究しようと思っています。
- 井上 肇（3期） 日本中どこに行かされるか判らない仕事を続けております。その関係で思いがけない場所にも行けます。今年は徳島の眉山、京都の福知山城、三重の伊賀上野などに行きました。宇都宮でも城址公園が整備され、城の一部が復元されてました。
- 金田 精彦（3期） 草木と鳥を追いかけて、千葉県を中心に歩き回っています。忙しい毎日です。YWV-HPにも色々千葉の自然その他を紹介しています。
- 平林 茂（3期） 山は歩かず眺めるものになって久しい。先日は、信州奥山田温泉「満山荘」へ行った。夕日が沈み、オレンジ色の空を背景に、北アルプスの山々が黒いシルエットとなって美しかった。左手には穂高と槍、真中に鹿島槍・剣、右手に白馬。露天風呂からみとれていたぜいたくな時間であった。日本酒も料理もとても美味。
- 永田 明彦（4期） 定年後1年が過ぎ、生活にもなれ、これまでのように東北・北海道の山歩きをしています。今年からは昔を思い出し、北アルプスにも出かけはじめました。9月下旬はまた北海道に出かけます。ご盛会をお祈りします。
- 密島 英二（6期） 最近シニア OB 会へも不参加が続いており、山に縁遠くなっていますが、4月にヒマラヤのランタン、リルンの氷河を見に 4500m まで行ってきました。
- 菅谷 光雄（6期） 生活の必要に応じて家を移しました。所在地は従来地の近くですが、違いはバリアフリーです。古い工務店と妥協の産物も随所にあります。御近くへ御出での節は是非、御立寄下さい。楽しみにしています。
- 古荘 敏子（6期） シニア月例 W を続けてほしいと思っています。（できたら平日に）
- 今井 忠男（7期） 学校を退職し、再々就職はケンタッキー州の小さな町で数学と剣道を教えています。62才を超えてまだ外国暮らしも珍しいかな。アメリカ東南部の自然に囲まれた田舎暮らしです。必要あればケンタッキーの生活を報告いたします。
- 菅谷美智子（7期） バリアフリーを最優先して家を建てるのに日々忙殺されて居ります。
- 鈴木 博子（7期） 50周年おめでとうございます…!!少しおかしいですか。皆様のおほねおりで50年も続いたYWVに乾杯。OB会の場ではほとんど協力的でなかった私にも、うれしさが伝わってきます。せつかくのお祝いなので記念式典には参加させていただこうと思います。そして先輩各位も含めて、ぜひさらに、永生きしてがんばってください。
- 小谷 昌男（8期） 2005年3月末定年退職後、別の会社で未だに働いています。

- 畑中 誠 (8期) 毎日、スケジュールに追いかけられ多忙に過しておりますが、元気にやっております。山登り(ハイキング)は年に2~3回の程度です。OB会の益々の発展を祈念しております。
- 綾部 和子 (8期) ワンゲルが創部 50 周年を迎えることに感慨無量です。大学 1 年の時に入部してから、現在まで 40 年以上もの間、私の生き方に、ワンゲルは大きな影響を与えてくれています。これからもワンゲルがずっと活動を続けていくことを願います。
- 武藤 直子 (8期) 退職して 2 年目。すっかり、のんびりした生活ペースが身につけてしまいました。月 1 回の予定で、山や温泉や各県などに旅行しています。最近では、鳥取の大山に、8 月下旬登ってきました。
- 須藤 昌博 (8期) 今なおロケット開発に微力を注いでいます。
- 佐木 誠夫 (8期) 今年は 50 周年記念の玉山登山を始め、9 月に飯豊山と久しぶりに登山をするようになりました。
- 日渡 松男 (9期) 年数回個人山行、OB 山行にも時々参加。9 期の年会費納入状況が悪いのが気になっています。機会をとらえて納入をお願いしているのですが…。メンバーの何名かは連絡しても返信が無いので心配しています。
- 山本 陽一 (10期) 2007 年は山行 30 日目標で登っています。GW の巻機山で 10 日になりましたが、その後いろいろなことがあり空白 3 ヶ月。7 月末槍ヶ岳、8 月下旬南アルプス大無間は派手と静寂の両極端の山でした。
- 桜井 謙一 (11期) ここ 20 年ばかり膝、腰を痛めたこともあり、山にはご無沙汰しています。YWV も 50 年になるのかという感慨があり、50 周年記念式典に出席したいのですが、11 月 10 日~11 日と岐阜で「海づくり大会」が開催され出席しなければならず残念ながら欠席します。
- 左藤 清 (12期) 山は家族と軽いハイキングに行く程度です。数年前に北八ヶ岳横岳付近の岩場のあるコースに家族をだまして連れて行き、ひんしゆくをかいましたが、オコジョが出てきて多少すくわれました。
- 山川 隆 (12期) 8 月末に転職し、9 月 1 日から渋谷に本社がある日本システムウェアという会社に勤務しています。2 年間関西に住みましたが、また東京勤務です。
- 鈴木 道夫 (14期) 最近山歩きから遠ざかっていますが、新潟県内の里山ガイドブックを買いました。少しずつ歩いていくつもりです。今年は長女の祝いごとで栃木へ行くことが多かったです。
- 萩生田 弘 (15期) 2006 年に子会社に異動になりました。今は、現場が山にない限り、山とは無縁の生活をしています。房総に住んでいるため、海釣りを楽しんでいます。現地工事をしているため、休日でも中々休めない状況で、休日の楽しみ方を忘れてしまいました。
- 西浦 章予 (15期) ひょんなことから記念誌の担当になりました！本当言って大変でしたが過去のスカイラインや資料をひもといたり、思いきって色々な人と連絡をとり合ったりとワンゲル時代にもう一度ひたることができました！感謝！です。
- 板垣 雅訓 (16期) この夏は久しぶりに奥穂に登りました。前穂から岳沢側に下りるつもりが、岳沢ヒュッテが流されてしまってもうないとの情報。年月の流れの早さに我身を振り返ることしばしではありました。

- 山口 貢三 (18 期) 18 期有志で東北の山へ行きました。栗駒山、秋田駒は、良い温泉もありもちろん夜は宴会と大変楽しい旅でした。子育ても卒業しミドルエイジはこれからが楽しい日々を送るのだ。
- 浜田 淳 (18 期) この 4 月から岡山で大学教師をやっております。お近くに來られる際はご一報下さい。
- 笛木 久栄 (19 期) 6 月に青年海外協力隊員として、モンゴルにいる友人の所に遊びに行きました。彼女の赴任地はウランバートルからローカルバスで 12 時間かかるゴビ砂漠の中の町。行きは順調、帰りはバスが故障し、ゴビ砂漠の真ん中で日没、月、日の出を見、砂にまみれて 34 時間かけて帰りついた、思い出深い旅でした。
- 小松 真弓 (19 期) 現在、六年生担任です。六月に修学旅行の下検ということで新緑の奥日光ハイキングを行いました。校長、教員の異様な集団…。しかし、久しぶりに歩く木道や輝く湿原はすばらしかったです。9/27,28 の本番も楽しみにしていたのですが、台風 9 号の影響で木道がこわれ、コース変更となりました。残念!!
- 満留 周子 (24 期) 現在、夫の駐在に帯同してジョージア州アトランタに住んでいます。日本にいたら、ぜひとも YWV の皆さんに会いに行きたいし、久々に苗名小屋にも遊びに行きたいところなのですが、遠すぎますね。大成功の素晴らしい会になることを、遠くから祈っております。
- 永田 武 (25 期) 最近簡単な登山再開。御嶽と谷川岳へ行ってきました。
- 上村 晴美 (25 期) 家事、子育て、仕事の繰り返しで忙しく、なかなか他のことに時間がとれません。そんな中でここ 3 年間、上高地へ、家族で足を運び、涸沢生活などの自然を楽しんでいます。現在、高 1 の息子は吹奏楽に、中 2 の息子はテニスに夢中です。私も自分の楽しみを広げていきたいと考えて始めています
- 中西 信之 (28 期) 2008 年 6 月に日本帰国を予定しています。
- 田村 顕洋 (34 期) 2007 年 12 月に 2 才になる長男を背負子に載せて、夫婦で低山をよく歩いています。家からアクセスの良い秩父前衛の目ぼしい低山はほとんど行ってしまい、次はどこに行くか、悩むことが多くなりました。
- 土方 康裕 (35 期) 山には少しずつ登っていますが、会社の山登りのみで、山ではポーターです。仕事は、とにかく忙しいの一言です。
- 佐々健太郎 (37 期) 2007 年 7 月に結婚しました。現在は東京都江戸川区に住んでいます。
- 三井 愛 (46 期) ドイツ、インドネシア、アメリカ、南アフリカと居住地を移し、ようやく日本に帰ってきました。博士課程後期進学を決意し、しばらくは日本で落ち着いて応用ミクロ経済学に向き合う予定です。差しあたっての「永久帰国」に伴い入籍して、引越しもして、まだバタバタと忙しい毎日です。3 月 8 日に挙式します。近しいワングルの先輩・後輩の皆様にはご出席賜りたいので、落ち着いたら順次連絡させていただきます。山にも現役で登りまくっています。この夏に仕事していた南アフリカでは、テーブル・マウンテンを登攀しました。この 9 月からは、伴侶 (←山初心者) を鍛えるために初心に返って「山歩き」から再出発です。

■ 第21回OB山行のご案内（蕨山）

OB山行委員長 小野恵美子(34期)

今回のOB山行は奥武蔵野の蕨山登山を予定しています。陽だまりの尾根歩きと下山後の温泉が待っています。冬の低山ハイクをご一緒に楽しみましょう。初参加の方大歓迎、ドタ参もドタキャンもOKです！どうぞお気軽にご参加ください。



〔日程〕 2008年 2月16日(土)

〔行先〕 蕨山(1033m)

〔地図〕 昭文社山と高原地図「22奥武蔵・秩父」

〔集合〕 「名郷(なごう)」バス亭前 9時30分

※マイカーでお越しの方はお申し込みの際その旨ご連絡ください。

〔交通〕 西武池袋線(急行) 池袋駅7:17～飯能駅8:07

JR八高線 八王子駅7:22～東飯能駅8:09

マイカーの方はさわらびの湯の駐車場(無料)に止め、バスに乗ってください。

・国際興業バス 原市場・名栗方面 名郷行き

飯能駅8:20～～東飯能駅8:23～～さわらびの湯9:03～～名郷9:20

〔行程〕 名郷—蕨山—藤棚山—金比羅神社跡—さわらびの湯〔歩程約5時間〕

〔参加費〕 500円(写真代等)

〔持ち物〕 昼食、水、おやつ、雨具、防寒具、軽アイゼン(直近の天候により必要と
なることがあります)、その他登山に必要な物

〔温泉〕 さわらびの湯(800円)。下山後ご希望の方はご用意を。

〔申込み〕 参加ご希望の方は下記のいずれかにご連絡ください。

吉野大次郎(2期) 電話:090-6485-9268 メール:yoshino@r07.itscom.net

小野恵美子(34期) 電話:080-5517-7320 メール:emiko150@s9.dion.ne.jp

■ 07年最後のシニアOB月例山行

編集委員長 下村 蓉子(10期)

年の瀬も押し迫った12月22日(土)に07年最後のシニア月例山行が大山で行われました。大山登山口の蓑毛に36名という大勢の参加者が集まり、登山前に恒例の07年シニア月例山行の皆勤賞・企画賞の授与が笑いと拍手の中で行われました。

蓑毛から大山下社までの穏やかな道を行き、下社前の茶店で温かいおでんと豆腐つきの昼食で心身共にほっかほか。その後自分の体力や都合に合わせて4つのコースに分かれるという新しい形式の山行となりました。



36名の大集合に大山下社も賑やかになりました。茶店での温かいおでんと豆腐付きの昼食は美味しかった。

■ 横浜国立大学ホームカミングデーご報告

平沼 茂 (8期)

11月10日(土)小雨降る寒い中を三々五々OBの方達が送迎バスから降りて常盤台キャンパスの第一食堂に集まってきました。第2回HCDへの参加者達です。10時近くになって次第に数を増し、午後には雨も上がり最終的には昨年の1割増の956名の参加を得ることが出来ました。集客係として成果を心配していた私としてはホットー安心です。当日50周年の集いがある忙しいワングルのOBの嘉納さん、米屋教授、吉野さん、岡田夫妻、林さん、鈴木さん、早坂さんほか名前不詳の方々の顔もみえ、感謝一杯です。

8類の講演会やコンサート等催しが一杯で、かの有名な宮脇名誉教授の「森は命」と評論家竹内一郎氏の「人は見た目が9割」を聴講して満足げな人、聴講したい分野が沢山ありすぎて贅沢に悩んでいる人、研究室の公開で現在の大学教育現場の一端を見て安心する人等それぞれが有意義な一日を過ごされたのではないかと思います。

ミス国大生(社会ではこのような表現が禁じられるケースも多々ありますが、昨今の国大の場合はコンテスト出場希望者が多数いるとのこと)の司会のもと、96歳の参加最年長OBの元気な乾杯でスタートした懇親会は、ゼミ・研究室を超えたサークルや寮生の邂逅もあり、午後3時半の福引終了時間がすぎても別れがたき懇親が続いていました。詳細は横国大HPで見られます。来年のHCDは11月15日(土)開催予定です。YWVOB会も其の日に合わせられると、たくさんのOBの参加が期待できるかもしれませんネ。

■ 苗名小屋便り

今年は雪の訪れが早く、年末、年初の期間にかけてはまとまった雪が予想されております。

つきましては、本年度も妙高苗名小屋の除雪活動を実施致したく、OB諸氏諸兄にご協力を賜りたいと存じます。下記の日程で除雪を予定しております。

- ・ 第一回：1月26日(土)～27日(日)
- ・ 第二回：2月9日(土)～11日(月)の三連休
- ・ 第三回：3月8日(土)～9日(日)

除雪作業に参加頂ける方は、参加可能日を記入の上、返信メールをお願いいたします。

なお除雪に当たっては、下記のとおり交通費が補助されます。

*「苗名小屋OB等除雪活動交通費補助制度」から抜粋

2. 補助内容

参加者1名当たりの交通費実費に応じて3クラスに分け参加回数分を補助する。

クラスA 交通費実費1万円以上 : 5,000円/回

クラスB 同 5千円以上で1万円未満 : 2,500円/回

クラスC 同 5千円未満 : 原則として補助なし

車で参加の場合、車提供者(ガソリン代高速代等を含む)に対して補助するもので実費の発生しない同乗者は対象外とする。

3. 交通費実費の対象

(1) 公共交通機関の交通実費(乗車券、新幹線特急券、バス券、リフト券等)。

(2) 自家用車等の区間相当実費(燃料代、有料道路料金等)。

(3) その他OB小屋委員長が認めるもの。

■ 名誉会員 岡田悟氏を偲んで



岡田悟さんのご逝去を悼み、 謹んでお悔やみ申し上げます

本会名誉会員で、苗名小屋を40年の長きにわたり管理して下さった岡田悟さんが平成19年12月2日にお亡くなりになりました。享年88歳でした。

岡田さんには、我々の小屋活動に深い愛情をかけていただきまして、心より感謝いたしております。ここに深く哀悼の意を表します。

YWVから、通夜に鈴木氏(14期)が、告別式に池原氏(8期)小口氏(14期)親跡氏(34期)が参列されました。

葬儀を終えまして

親跡 冬樹(34期)

一通の電子メールがはじまりでした。

12月2日夜、4期郡司さんより、五八木荘の岡田悟氏が逝去されたとの第一報がありました。

14期鈴木さんが悟氏のご子息、究(きわむ)氏に確認をとり、以降日曜日夜から翌日にかけてOB会役員諸氏諸兄がすみやかに対応され、弔電、お花の準備が整いました。

葬儀は五八木荘のある妙高高原からは車で30分以上かかる、JR新井駅近くで執り行われました。当地では朝から雨だったのが8時頃から雪に変わりまして、岡田さんの葬儀は雪の中でとなりました。わたくしが9時半過ぎに会場「虹のホールあらい」に着きますと、すでに14期小口さんが到着されておりました。雪で難渋されたという8期池原さんが到着するのを待って会場へ。遺影を見やると左右には「横浜国立大学ワンダーフォーゲル部」ならびに「横浜国立大学ワンダーフォーゲル部OB会」の名前で花が飾られていました。

開始の10時までには、中央通路をはさんで110席余りを数える室内はほとんどの席が埋まり、故人の遺徳を感じさせました。

葬儀は真宗大谷派の様式にて執り行われました。まず故人が大正八年に生まれ、八十八歳で亡くなったことなどを紹介。続いて三人の住職の方により読教が始まりました。しわぶきひとつない室内に、住職の方の手で打ち鳴らされるカーン、カーンという鐘の音が響きます。

10時20分頃からお焼香が行われました。悟氏の奥様が「ありがとう、ありがとう」と声を掛けておられましたが、日頃達者な方が、心なしか肩を落としているように見受けられました。

続いて10時半過ぎから弔電の紹介に。ワンゲルからの弔電は「現役一同」、「OB会」、「山小屋委員会」と「高木部長」の計4通となりましたが、内容が読まれたのは小屋委員会のものだけで、他は名前の紹介となりました。

ぼた雪が灰色の空からゆっくり流れるように降りしきる中、11時にホール玄関前で出棺。ご縁の方数人の手で悟氏の棺が霊柩車におさめられるのを見送って、ワンゲル一同は帰路につききました。

岡田悟氏を偲んで

郡司 直樹（4期）

12月2日に御殿場高原で開催された「シニアOBの集い」のウォーキングコースから帰宅して、夕食後に宮崎（2期）さんからのメールで岡田悟氏の訃報を知りました。岡田さんには妙高苗名小屋の建設と運営では大変にお世話になりましたので、岡田さんの思い出を記し追悼の意を表したいと思います。

昭和42年にYWV創設10周年記念事業として山小屋建設運動を開始した時に、最有力候補地の妙高笹ヶ峰周辺で現地調査隊が五八木BSと三本木BSの中間に造林小屋と古井戸を発見し、当時杉野沢支所長であった故竹田幸雄氏の紹介で造林小屋所有者の岡田さんにお会いしたのが、そもそもの始まりでありました。岡田さんは我々の山小屋建設計画に深い理解を示され、同年12月には土地賃貸借用契約を結び、山小屋建設用地として200坪が格安の条件で使用できることになりました。

岡田さんは単なる土地提供者の立場に留まらず、山小屋管理人と自称して、雪国育ちでない久野（6期）氏の設計した小屋のオープンなベランダ構造にすぐ「ダメ」を出され、翌年雨戸設置などの改修工事を行うことになりました。

積雪対策にしても、設計者は屋根に十分な勾配を付けたから自然落雪する筈と考えていたが、岡田さんは「屋根から落ちた雪と屋根の雪が繋がってしまうと屋根を締め付ける力が働くので、小屋の倒壊を防ぐためには、地上の雪と屋根の雪の縁切りをしなければならぬ」の一点張りでした。

事実、屋根まで埋まる様な豪雪地帯では、毎年数回屋根の雪下ろしと除雪が恒例行事となっています。近年の新しい建物は新京大ヒュッテの様に高床式で、屋根からの自然落雪が屋根に繋がらない構造になっています。

岡田さんは、よく北村さんを使って造林小屋周辺の手入れをされて、気付いたことがあると苗名小屋の小屋日誌に、管理人岡田の名前で伝言などを記入されていました。

このような岡田さんの細やかな心配りと、現役およびOB小屋関係者の努力の結果が、妙高高原地区で最年長の山小屋として来年は創設40周年を迎えることができるものと感謝申し上げます。

我が青春の一コマ、岡田悟さんとのお付き合い

井上 肇（3期）

私が現役時代の1960年頃、信越線に田口という駅がありました。黒姫山から下ったところが柏原駅で、その次でした。

駅名が妙高高原、黒姫と変わって、1968年10月にワングルの山小屋が落成しました。

山小屋ができて2年間は、秋に3連休があると小屋に出掛けていました。また、1975年までは5月連休になると小屋に出向き、残雪の山を歩き回っていました。ワングルOBと一緒に時もあれば、1人の時もありました。途中からは、職場の仲間を連れて行っていました。

行く時はいつも夜行列車でした。長野駅での停車時間を利用してホームで顔を洗い、五八木荘にお寄りしてから、小屋に入っていました。当時、リボンテープで魚飾りを編むことをしていましたので、夜行列車の中で編み上げては、岡田さんへのお土産にしていました。岡田さんは喜んで下さり、糸でつるしては、玄関内などに飾って下さいました。

岡田さんは地元の名士であり、お付き合いの方も多く、お寄りした時は、山小屋のことから、町のこと、そして新潟県のことと色々なお話しをしたものでした。

秋には、山で見つけたキノコを持って帰りがてらお寄りして、食べられるキノコとそうでないものを分けて頂き、我が家へ持ち帰ったこともありました。

その後はご無沙汰となってしまいました。年賀状のやりとりは続き、年賀状を通じてその時々状況を知らせて頂いていました。そして、2000年にシニアOBの集いを杉野沢の原田荘で行った時に、久しぶりお会いしました。長らくお会いしなかったのに、覚えて下さっていて、会った途端、原田荘の土間に座り込まれ、こちらも土間に座っての歓談となりました。

今回、訃報に接し、心よりご冥福をお祈り致します。合掌。

岡田悟おじいちゃんのご逝去に接し

池原 盛彦 (8期)

12月2日午前11時40分頃にご逝去されたとの14期鈴木君からのメールを見て、とうとうその時が来てしまったなという思いと同時に、これまでのおじいさんとの交流40年が頭をよぎりました。

今から40年前、小屋建設時点では私は就職浪人中の身、何の手伝いもできずにいたのですが、12月に就職し早速小屋を利用しようと8期の森、佐木、佐木(弟)、池原の4名で師走の小屋に入りました。小屋に入る前におじいさんの茅葺の家により囲炉裏端で野沢菜を頂いたときの情景は今でも鮮明に浮かんできます。その頃はまだ40台半ばのかくしゃくたる方でももちろんおじいさんではなく今の究さんそっくり、いや逆ですかね、でした。冬の妙高火打山に登ると聞いて随分心配というか感心してくれました。

おじいさんはその頃からとても世話好きでいろいろと面倒を見て下さいました。またいろいろなお話をうかがうことが出来、社会勉強になったものです。欠点をあえて言いますと話が止まらないのですね。最近でもそうでしたが「池原さん、お茶を飲みなせー」とお茶が少なくなると断る前に注がれて、ついつい時を過ぎお腹がタプタプになってしまうのですね。小屋に入る前に寄ると半日はつぶれてしまうのです。それでも話の内容をよく聞いておくと役に立ちましたよ。

私が柏崎に居た2001年から2004年の3年間は良くお邪魔しました。畑にまで連れて行かれて今年の米の作柄はどうだとか、標高が高いから秋田小町を作っているとか。私にとって楽しい話が出来ました。またお邪魔するたびに「米を持ってけ」と1-2升も持たすのです。お米が一番尊いのだとの思想が徹底していました。

苗名小屋付近の土地や林は気がかりだったようで、元気なうちは笹倉君や私に所有地境界の目印の杉の木を教えてくれ、時には境界に沿って歩いて連れて回ってもくれました。私ら息子でもないのにどういう気持ちだったのでしょうかね。このとき聞いたのが熊の逆落しです。熊は崖を下りる時一まーるくなって転がって降りるのだそうです。ほんとうかなー？

数年前から寝たきりになって造林小屋が心配で心配で、初冬に「雪対策をしたよ」と話せば「ありがと」、また、「雪を下ろしたから」と話せば「ありがと」といつも両手を合わせて拝まれてしまうのでした。恐縮しましたが気持ちがいりかったです。

小屋の前には唐松の林が広がっています。この唐松の林の間伐は池原に一任されています。お前が切ると決めた木なら切って良いとのこと。そこまで信頼されたかと思うと言葉が詰まりました。この林は苗名小屋とほぼ同じ年齢です。将来を考えて植林されたのですが、「日本

の木が売れなくなってがっかりだよ」と洩らしていました。でも、今また唐松も見直されているようです。

長い目で見るとこの植林も良かったのかもしれませんが。おじいさんの遠い将来を見る見識の高さには頭が下がります。

おじいさんは立派な字をかかれます。何度かお手紙を頂きましたが草書体でしかも万葉仮名とかひらがなで書くところをいろいろと漢字を使われるのです。これには閉口しました。でも、これも私にとって良い勉強になりました。こういった少し古い文書が読めるようになりましたから。

おじいちゃん本当にありがとうございました。安らかにお眠りください。

悟おじいさんの思い出

元小屋委員長 笹倉 実 (30期)

悟おじいさんには長年本当にお世話になりました。実は10年ほど前だったでしょうか。当時は、小屋が放置され荒廃しており、OB会事務局長であった私のところにおじいさんから苦言の手紙が来て、「ワンゲルとのつきあいに息子（究さん）も含めホトホト困っている」との連絡がありました。

この時の事をきっかけにOB会に小屋委員会を作り、小屋の再生を皆さんに呼びかけ続けました。小屋というものは岡田さんとの善意の信頼関係の上で成り立っており、皆で小屋をしっかりと整備し活動し、あの土地を貸してよかったと思われるようにすることが、おじいさんへのお礼だと常日頃より思っております。

その後、交流を深め、おじいさんにはずいぶん可愛がっていただきました。よく五八木荘で歓談し、米をもらったり、「オレは来年死ぬから、今のうちに、お前達にヤマを教えておかなければ」と小屋周辺の土地の境界を一緒に回って覚えたりしました。これは7~8年ほど前の事だったでしょうか？ おじいさんは、随分と上機嫌で、かなり早い足取りだったと記憶しています。悟おじいさんさんのご冥福をお祈りし、「高いところ」から小屋を見守っていただけるよう祈念いたします。



鈴木 道夫 (14期)

30年以上の昔、直江津に主力工場がある化学会社に就職しました。入社2年目にワンゲルならランニングも得意だろうと勝手に陸上部員にされてしまって、妙高高原町主催ロードレースに参加することになりました。国道18号沿いの小学校から杉野沢への道を登り、イモリ池手前で折り返す10キロのコースです。結果はビリから数えてウン人目という惨敗、私としては当然でしたが……。レース後の式典が終わったら主催者の偉いさんがニコニコ顔で近寄ってきます。それが岡田悟さんでした。当時は町の教育長をなさっていて、見知ったワンゲルOBが参加してくれて嬉しかったようです。五八木荘には多くの部員がお邪魔したのに私を覚えていた事に驚きました。以来、転勤もなく自宅も当地に建てましたので長いお

付き合いになりました。小屋の雪下ろしで立ち寄るとロードレースの昔話がよく出て、照れながら聞いたものです。

小口 雄平（14期）

私が、初めてお会いしたのは昭和45年ですから、岡田悟さんもまだ50歳くらいだったのでしょうか。ですから、私にとっては、いまでも岡田さんのことをおじいさんと呼ぶのはしっくりきません。五八木荘の稲刈りでは、稲をカマで刈って、穂を上にして上部で縛ってまーるくして田んぼに並べていきました。その夜は皆でご馳走になって五八木荘に泊まったと記憶しています。たいしたお手伝いもしなかったのに、ずいぶんとおじさんとお婆さんには御礼を言われ、恐縮しました。また、昔の話なのに最近まで、「稲刈りをやってもらった」とおじさんに言っていました。

5、6年くらい前でしょうか、五八木荘に寄ったら、おじさんが造林小屋に行きたいから、車に乗せていってくれと言われてご一緒したことがありました。いつも五八木荘に寄ればいろいろな話をしてくれますが、このときも造林小屋の2階で、特に熱く語ってくれました。スキー場開発のこと、西武・堤さんのこと、土地・山のこと、造林のこと、造林小屋のこと、ワンゲルの山小屋のこと、小屋関係者のこと、現役のことなど。

「造林小屋はね、私の隠れ家のようなものだ」、「造林小屋の雪下ろしも頼むよ」、「ここにあるドラム缶風呂も使っているよ」とか言っていました。おじさんにとって造林小屋は大事な場所だったと思います。そして、これからの山のこと、造林のことを心配していました。

ワンゲルの山小屋のこともずいぶんと心配し、気にかけていただいていた。おじさんにはおじさんとしての考えがあったでしょうが、やはり、苗名小屋のいま在るは、おじさんのおかげだと思っています。山小屋へ入る道の駐車場のところと小屋からさらに先に行ったところにはクロモジの木が植えられていて、これは孫のためだと言っていました。

山小屋入口上の木板の「苗名小屋」の字は、おじさんに書いてもらったものです。

おじさんにはお世話やご迷惑のかけっぱなしで、御礼を言わなければならないのはだいたいこちら側なのに、いまは、おじさんの「ありがとう」「ありがとね」という言葉が、耳に残っています。本当に長い間お世話になり、ありがとうございました。ご冥福を心よりお祈り申し上げます。



左より 村山 小口 岡田氏 親跡 池原

■ YWV 現役の活動紹介

石倉 研 (50期)

現在、現役は4年生(48期)3人、3年生(49期)3人、2年生(50期)3人、1年生(51期)5人の計14人で活動しています。細々とではありますが、月1で山に行くようにしています。

まだ今年度は終わっていませんが、簡単に今年度の活動紹介を行ないます。

4月、新入生の勧誘を行い、新歓で箱根に行く予定でしたが、雨のため、クライミングジムに行きました。本格的にクライミングを行なうことは考えていませんし、あくまでも、趣味やトレーニングの位置づけです。

5月にはまず、50周年の記念山行で丹沢の畦ヶ丸に行き、現役の方からは数名参加しました。

その翌週には新錬1次で大菩薩へ行きました。上野原からバスで松姫峠まで行き、稜線沿いに東の方から大菩薩を目指しました。

6月に清陵祭、11月に常盤祭と年二回大学祭が行われるのですが、清陵祭ではワングルは出店をしないので、代わりに山に行きます。新錬二次ということで、甲武信に行きました。1年生は2、30キロの荷物を背負い、歩荷を行ないました。

8月の夏合宿では立山、薬師の縦走を行ないました。夜行バスで富山まで行き、室堂へ。立山、五色が原、スゴ乗越を経て、薬師へ。三泊四日と昔と比べたらやはり短いですが、前半は天気にも恵まれ、雷鳥も身近で見ることができ、とても楽しめました。

9月はPWで北八や雲取へ。北八は縞枯山から天狗岳まで。夜寝る前にカモシカと遭遇しました。暗かったためクマと見間違え、大騒ぎになったことがありました。山小屋の人に迷惑をかけてしまいましたが、目の前でカモシカを見れたことは、いい勉強になりました。

10月は50周年の式典で、苗名小屋へ行き、OBの方々と一緒に妙高に登りました。登山



後は、祝賀会、懇親会に参加し、五右衛門風呂にも入りました。翌日にはOB指導のもと、小屋の整備を行いました。

そして11月の頭には常盤祭があり、例年通りカレーを販売しました。今回は場所が奥の方で去年ほどは売れませんでした。それでも10万円ほど利益が出ました。また、OBの方々にもご来店いただき、その際に寄付金もいただきました。本当にありがとうございました。

そして、記憶にも新しいですが11月10日に50周年の記念式典が横浜で行なわれました。私の方からは、現役の活動紹介を数分ではありましたがさせていただきました。50年という長い歴史を思うと、多くの先輩方がいたから、今のワングルがあるのだ、としみじみ思いました。

その翌週にはリー養で丹沢に行きました。天気にも恵まれ、快晴の中山頂までたどり着きました。最近では丹沢に登ることも少なくなり、ワングルのホームグラウンドとしての丹沢を味わうことができ、よかったです。

春合宿の行く先はまだ未定ですが、昨年と同じく九州に行く可能性が高いです。四国に行く案もあり、まだまだ先の話ですが、その日のためトレーニングを怠らずしっかり準備した

いと思っています。

来年度以降もワングルを存続させ、100周年を迎えられるよう、現役として努力し続けたいと考えています。簡単ではありますが、これで現役の活動紹介を終えたいと思います。



■ OB会報編集係からのお願い

- 住所変更がありましたら名簿係（36期 渡邊）までご連絡をお願いします。
- 皆様の身近で起こった出来事や、ちょっとしたニュースなどをぜひお知らせ下さい。
編集委員（8期松本・10期下村）がお受けします。
- 名人紹介コーナーを新設します。
OB 会員の中には特技をお持ちの方、何かに打ち込んで頑張っている方、ユニークな活動をしている方、海外で生活をしている方など幅広い分野で活動されている方が多くおられます。そのような方々を紹介していきたいと思い、人材発掘をしていきたいと思えます。お心当たりのある方は、ぜひご協力をお願いします。
推薦して頂ける方の情報を編集委員までお寄せ下さい。（8期松本 10期下村まで）

○情報あて先

名簿係	渡邊 隆史（36期）	tac_tacsen@yahoo.co.jp
編集委員長	下村 蓉子（10期）	shimomurayouko@ybb.ne.jp
編集委員	松本真理子（8期）	marihiro@cc.catv-yokohama.ne.jp



苗名滝 2007.10.13
撮影：林誠一（7）

YWVOB 会会報第 37 号

発行：横浜国立大学ワンダーフォーゲル部 OB 会
発行日：2008 年 1 月 15 日
発行責任者：嘉納 秀明(1)
編集責任者：編集委員長 下村 蓉子(10)
編集：編集委員 松本真理子(8)
印刷所：株式会社 カワチャ・プリント（東京都港区新橋 5-31-7）
編集にご協力いただいた皆様、ありがとうございました。